2005年の主要水産物の需要と供給

単位：数量，1000トン、価格，円／kg

年	生産	陸上加工	輸入	輸出	消費地10大都市	在庫	生産額(億円)	輸入(億円)	輸出(億円)	消費地10大都市	魚介類消費支出１世帯	為替レート
16	5776	2129	3485	424.2	1994	1227	16032	16369	1486	760	94,809	108.3
17	5719	2090	3343	468.8	1897	1245		16686	1753	774	93,041	109.6
%	99	98	96	111	95	101	0	102	118	102	98	101

数　　量

本年の国内生産量はほぼ前年並みであった。

全体的な特徴としてはサバ類が突出して増加し、サンマ、カツオ類も増加したが、片口イワシが減少したのが顕著であった。

大きく増加した魚種は、サバ類、サンマ、カツオ類等であり、大きく減少した魚種は片口イワシ、マアジ、スケトウダラ、ホッケ、スルメイカ等であった。

輸入は、334万トンと円安、各国との競合・買い負け等もあって前年をやや下回った。

この中で目立って増加した魚種は少なく、シシャモやキハダ、魚肉がやや増加したのみで、概ね微増程度に終わっている。逆に減少している魚種で目立ったものは、アジ、カツオ、メバチ、赤魚、ウナギ、ミール、ワカメ等であった。

輸出は、約46.9万トンで前年（42.4万トン）を引続き上回った。

本年は、カツオとサバ類、ホタテ貝が突出して多く、また昨年多かったビン長やキハダが国内漁との関係で減少した。

消費地入荷量（10大都市）は、190万トンで前年(199万トン)を引続きやや下回り近年の減少傾向は今年も続いた。

目立って多くなった魚種は、生鮮ではカツオ、カニ類で、冷凍ではエビ類であった。大きく減少した魚種は、生鮮ではマイワシ、アサリ、ホタテ貝で、冷凍ではビンナガ、サケ・マス類、サンマ、タラ、スルメイカ、塩蔵サバであった。本年は生鮮品がやや減少、冷凍品が減少となりり、海藻類のみが依然健康志向も強く本年も引続き増加した。

在庫量は、月平均125万トンで前年（123万トン）をやや上回った。これは、国内生産や輸入量がやや減少したものの、サバ類、サンマ等、餌料や加工原料等に向けれる冷凍保存型の魚種の好漁を反映したものである。

価格・金額

１７年の産地価格は、多獲性魚の安値もあり、昨年をやや下回ったものみられる。

本年の産地価格の特徴は、東沖が不振であった生・冷ビンナガ、生産が落ちているマイワシとスケトウダラ、ホッケ、赤イカ等が上昇著しかった他、好漁の生・冷カツオ、豊漁のサバ類、大型サイズへの組成の偏りが目立ったサンマが下落した、こと等であった。

消費地価格（10大都市）は、774円でほぼ前年（760円）並みであった。

目立って高くなった魚種は、生鮮ではカジキ類や輸入の減少のウナギ等で、冷凍では生同様カジキ類、輸入価格の上昇のサバ類、入荷の少なかったスルメイカ等であった。

逆に安かったのは生鮮では好漁であったカツオ、サンマ、冷凍、塩干、塩蔵は目立った下落七かった。

輸入金額は、１兆6686億円（前年:１兆6369億円）で前年を317億円上回った。
輸出金額は、1753億円で前年（1486億円）を267億円上回り、量、金額とも増勢傾向が顕著になっており、産地側での海外指向も強いことから来年も続くものとみられる。

円　レ　ー　ト

17年の円レート（対ＵＳドル）は、年平均110円で前年（108円）より2円の円安となった。
円レートは、85年の９月のプラザ合意以降一時的な円安がみられたものの急速な円高・ドル安傾向が10年間続いた。
しかし、95年秋から円安に転じ、97年以降に証券会社、銀行の倒産が続き金融システム不安等も重なり一層円安が進行し、98年も一時140円台の安値を記録するなど秋口まで円安が進行した。その後、一時年末にかけて円高(113円)へと反騰したが、99年は夏場までやや円安(114～121円)で推移したが、下半期には急激に円高に反騰し、12月は103円まで急騰した。2000年は年末の円高の103円からスタートで、一時的な円高はあったが、基本的には円安傾向で推移し、年末には111円まで下げた。01年は長引く不況や銀行、ゼネコン、流通分野での倒産、再編もあり、年を跨いで急激な円安が進行し、９、10月に119円とやや円高に戻したものの12月には124円と円安に急落した。02年には131円の円安から始まってその後円高に転じ、8月に118円まで上昇したが、一向に景況感の低迷もあり12月には122円まで下げた。その結果、為替は10年前の水準まで戻した。03年は年初の119円から始まり9月までは2円前後の幅での小さな動きであったが、10月に111円と急騰し、11,12月と小幅円高で推移し108円まで上げた。04年は年初106円の円高で始まり、５月に112円の円安に振れたが、その後は円高に転じ11月以降は104円、103円まで上げた。05年は年初の103円から下半期には円安に変わり７月には110円まで下げ、その後一貫して円安で推移し、12月には119円まで下げ、年末には若干円高となり117円台で推移した。
（参考：84年237円→85年240円→86年170円→87年146円→88年128円→89年137円→90年145円→91年135円→92年127円→93年112円→94年102円→95年94円→96年108円→97年121円→98年131円→99年114円→2000年107円→2001年121円→2002年126円→2003年116円→2004年108円）→2005年110円

石　油　価　格（１kl当たり）

17年のＡ重油価格は、年初は前年末からの39,000円から始まり１月下旬に37,000円、２月下旬、36,000円まで一時的に下げたが、３月上旬に38,000円と再度上げ、中旬40,500円、下旬42,000円、４月上旬46,000円となり８月上旬まで続いたが、中旬に49,000円に上げ、10月一杯続いた。そして11月上旬に50,000円と再度高騰し、年末まで続いた。本年は前年以上に高騰が著しく、漁業経営にも深刻な課題を残した。
参考：近年の最高値74,000円/kl（1982年11月）